

# 地域漁業学会

# 会 報

## 【発行】

地域漁業学会 事務局  
〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20  
鹿児島大学水産学部内  
chiikioffice@gmail.com  
Tel&Fax 099-286-4280  
http://jrfs.org/

No.92

2013年8月

## 目 次

- |                |               |              |
|----------------|---------------|--------------|
| 1. 第55回大会案内    | 学会事務局         |              |
| 1) 鹿児島大会へようこそ  | 2) 実施概要       | 3) シンポジウムの概要 |
| 2. 研究会報告       | 近畿部会          |              |
| 3. 事務局便り       | 学会事務局         |              |
| 1) 個別報告の受付について | 2) 学会賞の推薦について |              |

## 1. 第55回大会案内

### 1) 鹿児島大会へようこそ

本年10月26日～27日に第55回地域漁業学会を鹿児島で開催させていただくことになりました。10月26日の土曜日午後にはカツオ節産業に関するシンポジウムを開催いたします。水産加工品の中でも、国内において非常に根強い需要がありながら利用形態が激変しているカツオ節について、消費の変化や食育の現状を踏まえて産地側の視点から検討いたします。また10月27日の日曜には、個別報告を予定しております。多様な分野からの積極的なご報告・ご議論を期待しております。

地域漁業に関する真剣な議論の合間には、日本一の生産量を誇るバショウカジキ、養殖ブリ、養殖カンパチ等の刺身を地元の甘い醤油と本州産醤油で食べ比べ、養殖ウナギのほか、さつま揚げ、酢味噌で食べるキビナゴの刺身、首折れサバ、本格焼酎等でお楽しみいただき、地域経済を潤していただければ幸いです。多数の参加をお待ちしております。(鹿児島大会実行委員長・佐久間美明)

### 2) 実施概要

①日程 (土曜は午前に理事会等を行い、シンポジウムは午後から開催です。ご注意ください)

2013年10月26日(土) 午前：各種委員会・理事会 午後：シンポジウム・懇親会

2013年10月27日(日) 個別報告・総会

#### ②場所

鹿児島大学水産学部

〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20

Tel & Fax 099-286-4280 (担当：佐久間) sakuma-eco@nifty.com

#### ③参加費

参加費：2000円(要旨集代込み。個人会員、学生会員ともに同額)

なお、非会員で要旨集希望者は2000円。要旨集不要者は無料。

### 3) シンポジウムの概要

#### 1. テーマ

カツオ節産業の過去・現在・未来

－現代的状況と今後の展望・枕崎地区を中心に－

#### 2. 趣旨

カツオ節は、日本食文化の礎といっても過言ではない。和食に不可欠なダシとして、日本人の食生活を長きにわたり支えてきた伝統的な水産加工品である。これからも日本人が和食を食す文化を有する限り、我々にとってカツオ節が重要であることに変わりはないであろう。ところで、現代人は慌ただしい生活の中で安価で便利という効率的な消費を選択するようになり、そうした消費者ニーズの変化は供給する側の産業に大きな影響を与えてきた。カツオ節も同様である。カツオ節をめぐる消費者ニーズが変化する中、現在のカツオ節産業はどのような状況にあるのだろうか。そして、今後いかなる方向へ進んでいくのだろうか。

カツオ節のダシとしての消費について概観すると、家庭で「節を削ってダシを取る」といった伝統的な消費形態はほぼ消滅した一方で、それを代替するものとして、めんつゆや液体和風だしなど、ダシ抽出の機能に特化した製品が市場を席卷するようになった。それにより、カツオ節はそれら製品の原料となり、原料化が進んだカツオ節には高品質で手間のかかる高価な本枯節ではなく、安価で大量生産が可能な荒節が求められてきた。こうしたニーズに応えるべく、カツオ節産地において荒節の生産増大が図られてきたことは、節産業の現代的特徴として既に明らかにされているとおりである。そして、カツオ節産業の海外展開もまた、安価で効率的な節供給を実現するためにアジア地域でみられるようになった。

カツオ節の利用形態の変化はこれだけに留まらない。食の簡便化という消費トレンドが堅調な中、高次加工食品を製造する上ではカツオ節よりも安価で効率的にダシの風味や香りを添加することができるエキス等の需要が高まっている。さらには、カツオ節あるいはカツオの機能性成分の利用も進んでおり、カツオ節生産から安定的かつ一定の品質を保ったまま発生する莫大な量の残渣は、機能性食品素材の原料として新たな価値を持つものとなってきている。

そこで、以上のようなカツオ節をめぐる利用形態の変化を踏まえ、本シンポジウムでは、様々な観点から新しい方向へと進みつつあるカツオ節産地の現代的状況をあぶり出してみたい。そして新たな展開をもたらした条件、新展開に伴う問題点などを整理し、カツオ節産業が今後どのような可能性を持つのか、産業の実態を把握しながら検討を試みたい。またカツオ節の生産と消費について互いの理解が深まる機会となれば幸いである。なお、本シンポジウムでは最大産地である枕崎地区を中心に取り上げることとする。

#### 3. 構成（報告タイトルは仮題）

コーディネーター 久賀 みず保（鹿児島大学）

第1報告 現代の食生活におけるカツオ節消費の変化と食育

福司山 エツ子（鹿児島女子短期大学名誉教授）

第2報告 枕崎におけるカツオ節関連産業の展開と新しい動き

久賀 みず保

- 第3報告 カツオ節関連産業における製造技術の実態と労働問題  
佐々木 貴文 (鹿児島大学)
- 第4報告 枕崎地区におけるカツオ節リサイクル事業の展開と意義  
小湊 芳洋 (枕崎水産加工業協同組合)
- 第5報告 カツオ節の健康機能と新技術  
杉山 靖正 (鹿児島大学)
- コメント カツオ節加工経営における取り組みと今後の展望—若手後継者の視点から—  
若手後継者代表  
司 会 佐野 雅昭 (鹿児島大学)

## 2. 研究会報告

近畿部会 増崎勝敏 (大阪府立旭高等学校)

近畿部会は5月11日(土)に人文地理学会歴史地理部会の研究会を関西学院大学大阪キャンパスにおいて共催した。テーマは「漁業をめぐる歴史学・地理学への誘い」であった。

研究会では2名の発表者の報告と、それを受けたコメントがなされたのち、全体討論が行われた。以下その概要を報告する。

□第1報告 従事者の行動から見た漁業史 服部亜由未 (名古屋大学)

ここでは服部氏が歴史地理学の立場から漁業研究を行うに至った経緯と、今後の課題、研究を通じた様々な出会いや研究の魅力を報告した。服部氏は北海道におけるニシン漁業について、『北海道出稼年度記録』に基づき、出稼ぎ漁夫個人の一生における出稼ぎ活動を分析した。服部氏によれば、従来の研究は漁家に残された「漁夫名簿」等を活用した漁夫の出身地や就労年数の分析に限定され、漁夫個人に視点を置いた分析は手つかずの領域であったという。服部氏の研究の出発点となった『北海道出稼年度記録』と「漁夫名簿」を組み合わせることで、ニシン漁業の就業場所と出稼ぎパターンが変化することを示すことが可能となった点が指摘された。また服部氏は、ニシン漁業の衰退期において従事者が複合漁業や新規事業への挑戦、他業種との副業といった多角的な経営を展開した点にも言及した。

□第2報告 「漁業史」との出会い、そしてこれから—歴史学の立場から—鎌谷かおる(神戸女子大学)

鎌谷氏は歴史学の立場から漁業・漁業史研究の方法や、自身のフィールドとの出会い、隣接する諸学との関係等について報告した。鎌谷氏は近江国堅田の古文書研究が自身の琵琶湖における漁業史研究の契機となった点に言及したが、なかでも「出会い」をキーワードとして、研究者との出会い、フィールドとしての滋賀県高島市マキノ町知内集落との出会い、同地での研究会の発足とそのメンバーとの出会いについて述べた。知内集落での研究に関しては、連関する諸学の研究者とともに地域で生活をしながら研究を進めるというスタンスが示された。

□コメント 『漁業、魚、海をとおして見つめる地域—地理学からのアプローチ』の編集に携わって」  
林紀代美 (金沢大学)

林氏は漁業を扱う地理学と歴史学、さらに漁業社会学等の隣接諸学の研究者が集い、それぞれの研究の出発点や研究に寄せる思いを披瀝しあうことの意義についてコメントした。林氏は研究者がこうした各人の研究の根幹にあるものを語る場面は多くはないものの、そうした行為が自己の学問の他者への発信のみならず、研究者自身の足許を見つめるうえで重要であることを指摘した。また、研究者が対象に対する魅力を語る平易に語ることが、次代を担う若き研究者やフィールドである地

域に還元してゆく営みとなることに言及した。

□全体討議 司会 河原典史（立命館大学）

全体討議では事実確認として服部氏に対する漁業権の変遷に関わる確認から議論が開始された。そして、鎌谷氏に対しては琵琶湖漁業についての漁閑余業、農閑余業について検討する必要性が説かれた。つぎに漁業に対する地理学と歴史学からのアプローチの相違点・共通点に関し、歴史資料としての文書の扱いなどが議論された。さらに若手研究者へのアドバイスと、研究の地域への還元についての討議がなされた。前者では、調査される側にとって負の側面となる資料の扱いや、個人情報に関わる問題が指摘された。また、後者ではどのような研究対象をどのように具現化して還元すべきかという点が議論となった。

### 3. 事務局便り

#### 1) 個別報告の受付について

個別報告を希望される会員は、タイトル、報告者氏名（複数の場合は全員）、所属（同左）、要旨本文を A4 用紙 1 枚（縦置き横書き）に収めた Windows 版一太郎または word ファイルを、メールもしくは郵送で下記へ送付してください。また原稿ファイルとは別に、報告者の読み仮名と、プロジェクト等機材使用の有無をメール本文や別紙でお知らせください。なお、メールによるファイル送付の場合は事務上の行き違いや送受信時の事故を考慮して、印刷原稿 1 部を下記へ Fax または郵送してください。締切は 9 月 26 日（木）必着です。お送りいただいた原稿は報告要旨集に収録して配布・販売するほか、地域漁業学会の HP 等に掲載・公表される事があります。ご了承ください。

なお、シンポジウムの報告者の方は、枚数制限はありませんが同様の内容を 9 月 26 日までに申込先へ送付してください。また、コーディネーターより指示がある場合はそちらにしたがってください。

<申込先> 〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部地域漁業学会要旨集担当

Fax. 099-286-4280 電子メール：sakuma-eco@nifty.com

#### 2) 学会賞の推薦について

「学会賞」、「学会奨励賞（中楯賞）」および「学会功労賞（柿本賞）」の推薦がございましたら、被推薦者の氏名、同勤務先、推薦理由、その他必要事項を文書にて、10 月 16 日（水）必着で下記宛にお送りください。なお、締切後の推薦については学会本部事務局までお問い合わせください。事情により推薦を受け付けることもあります。

<送付先> 〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部地域漁業学会

Fax. 099-286-4280 電子メール：chiikioffice@gmail.com

**地 域 漁 業 学 会** <http://jrfs.org/>

本部事務局 〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20  
鹿児島大学水産学部内  
Tel&Fax 099-286-4280  
担当 佐久間美明 chiikioffice@gmail.com

郵便振替：01750-0-83886

銀行振込：鹿児島銀行 鴨池支店 普通 3354886